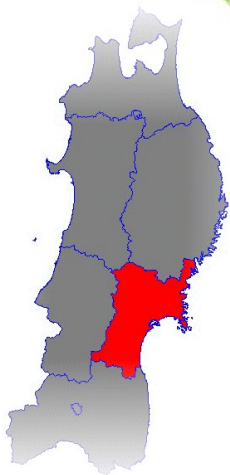




JASWHS 公益社団法人 日本医療社会福祉協会
Japanese Association of Social Workers in Health Services

東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル 2F

災害対策本部 (03) 3351-5038 アドレス dsstsw@jaswhs.or.jp



<目次>

1. 災害支援活動協力員募集と寄付金等のお願い
2. 会議の報告及び今後の会議の予定
3. 石巻・現地情報
4. 仮設住宅における医療福祉相談会の報告
5. グリーフワーク的サポートセッションの報告
6. 現地支援活動報告①②③④
7. 現地・事務所ボランティアの感想文



1. 災害支援活動協力員募集と寄付金等のお願い

週末、仮設住宅で相談会を開催しています。

相談会のみ活動も可能ですので、参加をぜひご検討ください。

多くの方のご協力をお待ちしております。

10月のボランティアカレンダー

(10月20日現在)

| 日付 | 事務所 | 現地 | 日付 | 事務所 | 現地 | 日付 | 事務所 | 現地 |
|---------|-----|----|---------|-----|----|---------|-----|----|
| 1[Sat] | 1 | × | 11[Tue] | 1 | 1 | 21[Fri] | 2 | 4 |
| 2[Sun] | 休 | × | 12[Wed] | 2 | ○ | 22[Sat] | 2 | 3 |
| 3[Mon] | 1 | × | 13[Thu] | ○ | ○ | 23[Sun] | 休 | 3 |
| 4[Tue] | 3 | × | 14[Fri] | 1 | ○ | 24[Mon] | 2 | 1 |
| 5[Wed] | 1 | 1 | 15[Sat] | 2 | 1 | 25[Tue] | 2 | 3 |
| 6[Thu] | 1 | 1 | 16[Sun] | 休 | 1 | 26[Wed] | 2 | 3 |
| 7[Fri] | 2 | 2 | 17[Mon] | 1 | 1 | 27[Thu] | 2 | 3 |
| 8[Sat] | 1 | 2 | 18[Tue] | 1 | 3 | 28[Fri] | 2 | 3 |
| 9[Sun] | 休 | 3 | 19[Wed] | ○ | 3 | 29[Sat] | 2 | 2 |
| 10[Mon] | 2 | 3 | 20[Thu] | 2 | 3 | 30[Sun] | 休 | 3 |
| | | | | | | 31[Mon] | 2 | 3 |

*数字は必要な人数・○は足りていることを表す。

現地は10月5日から活動です。

① 支援活動協力員登録人数（10月20日（木）現在）

- ・ 現地支援活動協力員 : 177名
- ・ 事務所支援活動協力員 : 91名

皆様お忙しい中のご参加で人員が不足しております。ご協力頂ける方は下記までご連絡下さい。

[災害対策本部 \(03-3351-5038 又は dsstsw@jaswhs.or.jp\)](mailto:dsstsw@jaswhs.or.jp) 平日・土・祝 10~17時

※メールでご連絡の際は、件名に「(現地)または(事務所)災害支援活動協力員希望」とご記載下さい。当会ホームページに[現地ボランティア応募フォーマット](#)が掲載されています。

② 現地支援活動について

宮城県大崎市古川のマンションが活動拠点となります。

平日1日3~4名体制 週末（金曜日~月曜日）1日4~5名体制を予定しています。

- ・ 引き継ぎ等の関係により、原則3日以上のご参加を希望していますが、相談会（2日間）のみの参加も可能です。
- ・ 毎週金曜日に災害対策本部副部長が現地入りし、統括をしていく予定です。

③ 事務所支援活動について

活動日程 : 月~土、祝日 の 10時~17時 ※半日での参加も可能です

活動内容 : 現地支援活動協力員の派遣調整、現地とのやりとり、電話・メール対応、事務処理
1日2名を目標にご参加頂いております。

財政的に厳しい状況が続いているため、事務所協力員は交通費1200円上限とさせていただきます。

④ 寄付金の振込口座：郵便振込口座

皆様の協力をお願い申し上げます。

口座名義 : 日本MSW協会災害支援金

口座番号 : 00100-1-89515

支店名 : 〇一九（ゼロイチキユウ）店（019）

口座種別 : 当座

※他の金融機関からお振り込みいただく場合には下記のようにお願いします。

ゆうちょ銀行 口座種別 : 当座預金 支店 : 〇一九（読み方:ゼロいちきゅう）店

口座番号 : 89515

備考 : お振り込みいただく金額に制限はございません。

ご自分のお名前とご連絡先をご記入ください。

お振込手数料は、各自でご負担ください。

***寄付の用途は、当協会の行う東日本大震災災害救援活動に使うことが決定しています。**

⑤ 活動内容の掲載について

石巻以外の地域で活動している方や被災者を受け入れている機関などの活動を本紙に掲載したいと思います。ご協力いただける方は[災害対策本部](#)までご連絡ください。

2. 災害対策会議の予定

日 時 : 2011 年 10 月 25 日 (火) 19 時 ~ 21 時

場 所 : 日本医療社会福祉協会 会議室

申込み : 不要 (直接会場へお越し下さい)

3. 石巻・現地情報



① 石巻での活動内容 **※状況によって内容が変わります**

- ・ 仮設住宅の巡回及び入居者の相談支援
- ・ 遊楽館を退所した方のフォローアップ
- ・ 地域の保健医療福祉機関のニーズ把握と対応
- ・ 福祉関係職種との連携と協働 (カンファレンス)
- ・ 経過サマリー作成業務
- ・ 在宅医療を担う医療機関との連携
- ・ 相談会の開催及び準備

② 宿泊場所

大崎市古川の 2LDK マンション。

* JR 東北新幹線 陸羽東線 古川駅より徒歩約 9 分

③ 現地移動車両

ガリバーインターナショナル社様のご厚意により、当会へ自動車を 1 台貸与していただいています (保険や車検関係はガリバー社が負担してくださっています)。

現地ボランティアの皆様の足としてご利用いただけます。

車種 : トヨタ「イスト」 ナンバー「野田 501 ち 3967」 銀色

④ 携帯電話

ソフトバンク様より、当会へ 20 台の災害用電話の無料貸し出しをしていただいています。7 月 1 日より、現地および、協会本部はソフトバンクの携帯電話を利用しています。

4. 仮設住宅における医療福祉相談会の報告

現地担当者 佐藤 杏

10月15日・16日に2回目の仮設住宅における医療福祉相談会を実施しました。

10月13日を準備にあて、チラシを496戸に配布しました。

1日目は相談者が来所せず、同敷地内の集会所で足湯の企画があり、その場所と間違えてきた方は数名いらっしゃいました。

2日目は、午前中に1名の方の相談がありました。震災前まで石巻市立病院かかりつけでストマ/インスリン管理をされていた方でした。インスリンは避難所に入所している際に日赤にかかったようですが、ストマはそのままになっていたようです。2~3日前より発赤あり痛痒いということでいらっしゃいました。「医療」福祉相談会ということで、医師がいると思い来て下さったようです。現在、日赤に通院するにしても、なかなか足がないとのことで祐ホームクリニックに繋がりました。

相談会の名称は、生活をもう少し強調したものを検討していきたいと思います。



配布したチラシ&ポスター



大橋地区の仮設住宅



相談会の様子

5. グリーフワーク的サポートセッションの報告

石巻市遊楽館で行われたグリーフワーク的サポートセッション ～スーパービジョンのサポート機能～

草水美代子（西片医療福祉研究会）

平成23年4月2日～平成23年9月30日の182日間、東日本大震災による石巻市指定福祉避難所「遊楽館」で現地の後方支援として相談支援活動を行ってきました。遊楽館は、去る平成23年9月30日をもって閉所しました。その間、福山和女先生をはじめとするルーテル学院大学包括的臨床死生学研究所の照井先生、御牧研究員による、グリーフワーク的サポートセッション（スーパービジョン研修）が開催されました。

今回は、ご報告と同時に、災害支援に携わる支援者への支援の重要性に関して考えてみたいと思います。7月～9月の3カ月間で、現地で5回実施していただき、現地の医療ソーシャルワーカーや医師、看護師、臨床心理士が参加しました。（のべ計29名）

災害救助活動は、行方不明者の捜索と救出が最優先され、まさに時間との戦いです。東日本大震災の被災地では、自衛隊、警察、消防や家族、医療従事者、福祉従事者、民間人などによってさまざまな次元の支援が行われています。私たちは、外部から専門職として現地の専門家を後方支援という立場で福祉避難所の相談支援を担当しました。

協会幹部の方々は、現地における専門家支援に関して当初からご理解くださり、ルーテル学院大学教授福山和女先生へのご相談を持ちかけてくださいました。人員確保と財政難という課題を抱えながら、遊楽館の災害支援活動を継続できました。その背景には、現場を支える理事会と事務ボランティア、この活動に理解を示した方面からの支援をしてくださった方々がいたからだということ、今更ながらわかってきました。

<専門家が現地で体験する喪失を理解する>

セッションを通じて、現地に来た医療ソーシャルワーカーは、何か役に立ちたいという「思い」と自分に何ができるかという「不安」が入り混じりながら現地に参加していることが明らかになっていきました。私は、5回全セッションにかかわらせていただきましたが、このセッションは、当日現地で活動する協力員のみ参加していただいていたこと、協力員として現地に来ていただいた方の中の一部の方の参加になったことに関しては、予算上、スケジュール上、私のコーディネート力等諸々の理由がありますことを申し添えます。）

現地で災害支援活動をおこなったソーシャルワーカーの多くは、活動中に、無力感や不全感を味わっていました。活動後、被災地から自宅に戻る途中、涙が止まらなかったり、職場に戻った後に、感情の高ぶりが収まらなかったり、人によっては、自責の念に駆られ苦しんでいた等の体験が報告されました。また、現地の活動を体験していない人とは同じソーシャルワーカー同士でも共通感覚がないため、共有できなれないという孤独感や焦燥感を覚え、体験を話さなくなることもあったという発言もありました。リピーターの中には、自分ができなかったことをもう一度やりに来たという人もいます。

<専門家が体験する「曖昧な喪失」の理解の重要性>

福山先生のグリーフワーク的セッション（スーパービジョン）の理論的枠組はF K S V理論を基調しながらも、ポーリン・ボスの『「さよなら」のない別れ 別れのない「さよなら」－曖昧な喪失－』の概念を取り入れておられました。

ボスは、「曖昧な喪失」には、2つのタイプがあるとしています。一つ目は、身体的には不在であるが心理的には存在していると認知されることにより経験される喪失。二つ目は、身体的に存在しているが、心理的に不在であると認知されることにより経験される喪失です。

被災地の専門職ボランティアの状況は、災害現地に来た多くのソーシャルワーカーたちは、日頃の自分の技術が使えないこと、従来の役割を果たせないことに無力感を味わっていました。表現は異なりますが、災害支援に来た専門職は、似た感覚を味わいます。その状況に対して、福山先生は、「役割の喪失」を体験しているという解説をしてくださいました。災害支援に出向いたソーシャルワーカーは、喪失が曖昧であり、困惑し、身動きができなくなり、どのようにその状態を理解すべきかわからず、解決に向かうことができづらくなっていたように思います。それゆえ、役立っていないことを嘆き、自らを責め続けている人もいました。(これは珍しくありません)

<リフレクションという技法>

このような状況に対して、リフレクションという技法を用いてセッションを進めました。リフレクションは、事実を語り、事実を基にした他者から自分への承認を受けることで、自分が行ったことの意味を省察することを促進させました。そのことによって、参加者の気持ちが楽になったのを覚えています。ナラティブで事実を述べるのがこんなにも、人に力を与えるのかと驚きました。

曖昧な喪失を体験した人は、「失われたものは何か」と「失われていないものは何か」を明らかにすることで、前進することができるというポーリン・ボスの主張点は、あたっているなと思いました。

<限界の予測と対処方法>

グリーンワーク的サポート(スーパービジョン)セッションは、リフレクションという技法を用いることにより、自分の喪失がどのような意味を持つのか、そのことの意味理解することができたと思います。

このセッションでの体験を通して、災害支援活動を行うソーシャルワーカー自身が、①支援の限界を予測しておくこと、②自分が貢献できなかった時の処方を準備しておくことの重要性に気付きました。このようなサポートシステムを活用して、災害支援に取り組むことができれば、現地協力員は、必要以上のトラウマを抱えずに済むのではないかと思います。

<災害支援におけるサポート(スーパービジョン)セッションの重要性>

スーパービジョンについては、担当ケースの助言や支援者のトリートメントなどというマイクロレベルでとらえている人も多いのではないかと思います。私自身も、福山先生が現地においでになった時、トリートメントしてほしいと思っていました。

しかし、セッションに5回参加させていただき、スーパービジョンの意義は、もっと大きな枠で捉えることが必要だと感じました。つまり、災害支援は、個人のニーズで行うべきことではなく、専門職のミッションとして行うのだということです。だとすれば、災害支援に取り組む専門家へのサポートは、決してマイクロレベルの次元で捉えるべきではないと思います。災害支援は、公益社団法人 日本医療社会福祉協会の社会貢献の一環であり、専門職ボランティアに対するサポートは、メゾ、マクロレベルの視野でとらえる方が、妥当なのではないでしょうか。

今回、このセッションを体験させていただきことによって、災害支援の尊さを実感し、自分が行ってきた活動の意義(価値)を見出すことができました。これら一連のプロセスがサポートであり、スーパービジョンのサポート機能の重要性を自覚につながったと思います。そのことによって、専門職としての自覚が促され、専門職団体の一員として支援を続けていこうという意欲が湧いたように思います。

被災した地域で支援活動を行うことは、たやすいことではありません。しかし、6カ月間現地で活動した者の実感として、今後も支援活動を継続していくことは重要なことだと思っています。専門職としてこの活動を継続していく上で大切なことは、現地への尊重と人の可能性を諦めないことだと思っています。また、現地の支援活動を行う会員に対する支援システムがあることで、現地協力員は、活動の意味や価値を確認し、乗り切っていけると思います。

<癒しのハート>



この写真は、御牧氏から（正確には、チャイルドファンドジャパンのボランティアさんが一つずつ手作りのハートです）セッション参加者一人一人にプレゼントされた「癒しのハート」です。癌病棟の医療スタッフが自分を励ます時に、このハートを握りしめるそうです。

<感謝をこめて>

グリーンワーク的サポート（スーパービジョン）セッションの企画は、公益社団法人日本医療社会福祉協会が、福山和女先生に対して、現地ボランティアに対するスーパービジョンの協力要請をし、企画及び予算措置等に関するマネジメントをしていただき開催されました。福山先生個人とし行うのではなく、研究所として取り組むことによって、メゾ・マクロの効果を出せることでもあったと解釈しております。研究所所長の福山先生をはじめ、事務局照井先生、チャイルド・ファンド・ジャパンとの橋渡しをしてくださった御牧氏に感謝申し上げます。

チャイルド・ファンド・ジャパンが、日本に対する支援は初めてであるということから、支援者支援の必要性をご理解いただき、組織に働きかけてくださった細井氏のご尽力に心からお礼を申し上げます。

多くの方々の労力と真心をいただいたのだと、改めて、感謝申し上げます。今後ともご支援のほど、よろしく願いいたします。

参考・引用文献

ポーリン・ボス著 南山浩二訳 『「さよなら」のない別れ 別れのない「さよなら」—あいまいな喪失—』学文社 2005

福山和女 「災害ボランティアが被災者と関わることの意味」月刊福祉 2011年8月号（第94巻第9号）p29~31

6. 現地支援活動報告①

岩手県大槌町 生活支援相談員の支援ボランティアに参加して

佐藤 千秋（聖マリアンナ医科大学東横病院）
斉藤 有香（川崎市立多摩病院）
友田 安政（横浜市立大学附属病院）
若杉 美千子（横浜市立大学附属病院）

このボランティアは、岩手県医療社会事業協会からの依頼により、岩手県大槌町社会福祉協議会 復興支援ボランティアセンターで8月から開始された生活支援相談員事業のサポートを目的とした活動です。

※ 生活支援相談員事業とは・・・

大槌町の仮設住宅訪問活動であり、以下の①～④を目的としています。

(以下、大槌町社会福祉協議会ホームページより抜粋)

- ① 直接訪問して、悩みごとの相談にのったり、要望の把握
- ② 介護・福祉サービスの利用等幅広い相談
- ③ 大槌町役場や関係機関との橋渡し役
- ④ 各種イベントや集会所などを利用したサロンづくり、等の活動を行います。



社会福祉協議会の仮設事務所



9月12日に完成したばかりの生活相談員が活動する仮設事務所

派遣日：第一班 平成23年9月8日～11日、第二班 平成23年9月13日～16日

対象：岩手県大槌町社会福祉協議会の生活支援相談員（以下、相談員）のフォローアップと仮設住宅に入居している地域住民への支援

方法：相談員の仮設住宅訪問の同行及びお茶会の参加

活動内容：相談員が行っている仮設住宅の戸口訪問の同行と、記録の作成、調査結果をまとめる個別情報シート作成及び住民同士の交流と心のケア、ニーズ調査を目的に開催しているお茶サロンの参加。

所感：仮設住宅は基本的に元々住んでいた地域の住民がまとめて同じ棟に入居する形を取っていますが、高齢者世帯のみの棟も存在し、体調不良の高齢者の発見が遅れる等の問題が発生していました。特に高齢者世帯、独居世帯に対しては、見守りや声かけを強化する等の対応が求められますが、相談員がその一端を担っており、重要な役割を担っていると認識しました。相談員の皆さんは地元出身であり、ご自身も壮絶な被災体験をしています。中には、自宅や車を流され、仮設住宅に入居されている方もいらっしゃいました。同じ土地で同じ体験をされている方が、地元の言葉で声をかけ、被災前の町のことや避難所での生活についても話ができることにより、地域住民の皆さんも安心して心を開いている印象を受けました。こればかりは、我々外部からやってきた人間が訪問をしてもなし得ることではないと思いました。



津波の被害にあった、歯科診療所。

被災後半年が経過し、住宅があったであろう場所には雑草が生えている。



県立大槌病院。

津波が 3 階まで押し寄せて来て、患者・医療スタッフ全員が屋上に避難し、一夜を過ごしたそうです。

一方、相談員の多くは医療や福祉の専門職ではなく、相談業務に従事したこともないとのことでした。戸口訪問をした際に、「支援が必要かもしれない」、「何か気になる」という引っかかりを感じながらも、「どこまで、どう聞いたら良いのか分からない」、「どう対処すれば良いか分からない」といった不安を抱えていました。我々ボランティアの主な役割は、相談員へのフォロー及びスキルアップです。訪問した住民の中には、「関節炎があるため仮設住宅玄関のドアノブが回せない」「入浴をさせたいが、仮設住宅の浴槽では介助が大変」「睡眠薬を処方されているが眠れない」「物忘れ、頭痛、めまいの症状がある」といった福祉、介護、医療に関する心配事を抱える方がいらっしゃいました。相談員の方々がそれらの心配事に対する対応に苦慮していたため、我々が自助具を案内したり、訪問入浴やデイサービスの利用方法を提案したり、薬の作用を確認したり、保健師らと連携を取り専門医の受診を勧める等の助言をすることで相談員をバックアップしました。大槌町でのボランティア活動を通じ、ソーシャルワーカーとしての専門的知識・技術を提供し、相談員のスキルアップを図るため、継続的に支援する必要性を感じました。



生活支援相談員が活動している仮設事務所の部屋の風景

大槌町では、相談員の方々が手探りで、不安を抱えながらも一生懸命に訪問活動を続けていらっしゃいます。そんな相談員の方々がエンパワメントすることも我々ボランティアの大きな役割の一つであると感じました。

今後は、高齢者・独居世帯のみならず、見守り訪問の必要がある世帯の範囲を広げて、各地域住民のニーズを発掘していくことが課題であると思います。相談員の方から「自宅が津波の被害を受けなかった為に支援から外れてしまい、苦しみながら生活している家庭、子育てや子どもの将来に不安を抱いている家庭など、被災によって今までの生活が大きく変化した方はまだまだいると思う。被災当初と比べて、孤独感、喪失感、絶望感を抱く人が増加している」との話を聞きました。10月から、相談員は30人ほど増員する予定と伺い、今後は益々相談員のスキルアップ、フォローアップを目指せるよう体制を整えていく必要性を感じました。

最後に、数日間しか活動出来なかった我々を温かく迎え入れていただきました大槌町社会福祉協議会の皆さま、災害ボランティアセンターの皆さま、生活支援相談員の皆さまに深く感謝いたします。

6. 現地支援活動報告②

鈴木 絵美子（熊谷生協病院）

場所：石巻遊楽館

期間：9月22日～9月26日

1. 感想

とても緊張して参加しました。台風の後であり、自宅がまた床上浸水した方もいて、それでもたくましく生きていこうとする現地の方に力ももらいました。

ボランティアで引継ぎながら一人の方の支援を進めていくためには記録がとても重要だと思いました。それでもその中で色々な方たちが関わってきたことを少しでもできるように課題を残しながらも、安心して避難所を退所する支援が行なえていれば良かったです。

2. 今後参加される方への情報・アドバイス

●現地への移動（実際にとった手段、ルート、出発・到着時刻等）

新幹線を利用しましたが、台風の影響で掛かる時間がまちまちでした。

在来線は運転見合わせとなっていました。

●現地での移動（実際にとった手段）

協会の車

●事前に得ておくべき知識

現地の大きな地理

6. 現地支援活動報告③

一原 綾子（自宅会員）

場所：石巻遊楽館

期間：9月25日～9月30日

1. 感想

ちょうど遊楽館閉鎖という節目の時に活動させていただきました。残っていた入所者は20人程、対してSWは理事の方や大先輩を含む5人、というなかなかない状況で、お一人お一人丁寧に濃密に関わることができたと思います。最後のお一人の退所を見届けた後、遊楽館で協働してきた方々と労をねぎらいあう中で、たくさんの方からSWの活動に対してお礼の言葉をいただき、半年間、支援を繋いできた皆さんの力を実感しました。

遊楽館での支援が終了しホッとしたのは確かですが、避難者の方々にとっては新たな生活のスタートです。多くの方が、馴染みのない場所で、孤独や不安や不便さと闘いながら生活していかなければならない実態を目の当たりにしました。地域では専門職のマンパワーが圧倒的に足りていないようですので、当協会としても引き続き支援を続けていく必要性を感じました。

2. 課題

毎日古川の協会マンションと遊楽館を車で往復するのは大変でした。寒くなると路面の凍結も心配です。早めに石巻市内に宿泊場所を移転できたらよいと思います。

3. 今後参加される方への情報・アドバイス

●現地への移動（実際にとった手段、ルート、出発・到着時刻等）

9:00 新宿駅－（JR 高速バス）－15:10 仙台駅－（JR 東北本線）－16:26 小牛田駅－（JR 石巻線）－16:48 前谷地駅－（タクシー）－17:00 遊楽館

●現地での移動（実際にとった手段）

協会の車に乗り合い

●事前に得ておくとい知識

現地の大まかな地理

●現地へ持参する必需品・不要だった物

現地に大抵の物はありました。

4. 参加を検討されている方へのメッセージ

引き続き多くのSWでつないでいく必要があると思います。皆さん、どうぞ状況が許す限り、参加なさってください。全国のSWと活動できるまたとない機会でもあります！

6. 現地支援活動報告④

筒井 万紀子（戸塚共立第2病院）

場所：石巻市内

期間：10月9日～10月10日

1. 感想

当初は、現地ボランティアに参加させて頂くにあたって、私のような経験の浅い者が行って大丈夫だろうか、第1回目の仮設住宅での医療福祉相談会の手伝いということもありどんな活動となるのだろうかという迷いや不安がありました。

しかしながら、当日、医療福祉相談会においてビラを貼りに行かせて頂いたり、相談会でお話を伺わせて頂いたりすることを通し仮設住宅にお住まいの方々の思いに触れることが出来ました。さらに相談会終了後も、今後の相談会の改善点についての話し合い、フェースシートの作成に関わらせて頂いて、普段会うことのなかったSWの方々との交流も図ることが出来ました。

至らぬところも多かったと思いますが、一緒に活動して下さった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。このような貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。

仮設住宅での医療福祉相談会は始まったばかりですが、とても重要な活動だと思いますので、今後さらに発展していくことを願っております。

2. 課題

仮設住宅の方々の思いを伺うだけでなく、円滑に地域の社会資源へ繋げていけるような関係作りを行う事

3. 今後参加される方への情報・アドバイス

●現地への移動（実際にとった手段、ルート、出発・到着時刻等）

[行き]四ツ谷～東京[中央線快速] 東京～古川[はやて] 四ツ谷 17:47 発→古川 20:29 着

[帰り]古川～東京[やまびこ] 東京～藤沢[東海道線] 古川 12:06 発→藤沢着 15:17 着

●現地での移動（実際にとった手段）

自動車

●事前に得ておくとい知識

地域の地名、制度

●現地へ持参する必需品・不要だった物

不要だった物…上履き、マスク

4. 参加を検討されている方へのメッセージ

周りの方々もフォローして下さるので、少しでも参加したいという気持ちがあるならば、思い切って参加するといいいのではないかと思います。

7. 現地・事務所ボランティア感想文

現地・事務所ボランティアの思いや業務のことなど・・・一読ください。

現地ボランティア

10月11日(火)

佐藤(自宅)

夕刻に、児玉さん・小淵さん・佐藤さんがいらしてくださいました。明日午前中に仮設住宅運営管理室・栗野さんとのアポイントメントも取れたので、明日皆で打ち合わせに行つてまいります。一人ではないので、心強いです。

10月12日(水)

佐藤(自宅)

本日は、強力な男性陣とともに、仮設住宅運営管理室・栗野様と面会し、社会福祉士等相談支援事業：医療福祉相談会について、不透明だった部分がおぼろげながらイメージできるようになりました。

今後の手続き等も明らかになったので、スムーズに進められるよう、取り組んで参ります。

佐藤(国立病院機構高崎総合医療センター)

初めての参加です。石巻市役所にて、今後の相談会の開催についての打ち合わせに参加しました。先週末に開催した初めての相談会を踏まえ、今週末開催予定の相談会へ向けての準備に、現地入りしている4名で取り掛かりました。

小淵(国立病院機構沼田病院)

半年ぶりの現地ボランティアです。久しぶりに訪れた石巻市は瓦礫がだいぶ片付いており、夜の町には光が灯っていました。しかし、復興にはまだ時間が掛かりそうです。

児玉(亀田総合病院)

2か月ぶりの石巻市に来ました。協会が用意してくれた古川のマンションが以前と比べて、テレビ・電子レンジ・洗濯機等の家電がそろっていて快適でした。また現地担当者の佐藤さんが布団・シーツの洗濯をしておいてくれた心遣いに感謝です。

10月13日(木)

佐藤(自宅)

今日は日中も夕方も秋晴れで、穏やかな過ごしやすい日でした。

市立病院の師長さんに連絡したところ、近くにいらっしゃりすぐに来てくださって、お会いできたのがとても嬉しかったです。

師長さんも、ケース対応に困っていて、「遊楽館だったらSWがいたのにな」と考えてくださっていたようで、お互い何か引き合ったのかも・・・と話しました。石巻の支援をするためにも、今後もぜひ協働させていただきたいと思いました。

佐藤(国立病院機構高崎総合医療センター)

今週末開催予定の仮設住宅地区にて、チラシを約500世帯へ配布しました。私は、14日(金)までの活動ですが、今週末の開催へ向けて、あと1日精力的に活動したいと思います。

小淵(国立病院機構沼田病院)

今日は週末の相談会に向けて500戸の仮設住宅にビラを配布しました。仮設住宅は繋がっているのが簡単そうですが、戸数が多いため思ったより大変でした。ビラ配りもマンパワーが必要です。

児玉(亀田総合病院)

週末の相談会に向けてビラを配布しました。その際、遊楽館でお世話になった石巻市立病院の師長さんとお会い出来たことにびっくりしました。元気に仮設巡回をしておられ、再会できた事が嬉しかったです。

10月14日(金)

佐藤(自宅)

本日は、佐原会長・笹岡副本部長がいらして下さり、石巻赤十字病院へのあいさつや市役所三課との話し合いなど、折衝が主な日でした。又、その間に、今後の協会事業としての災害支援活動についてのディスカッションもあり、とても有意義でした。

明日・明後日は二度目の相談会を予定しています。夕方からこちらは雨模様です。住民の方の出足が気になります・・・。

10月16日(日)

佐藤(自宅)

相談会2日目の今日は、1名の方から相談がありました。「医療」福祉相談会ということで、医師がいたかなと思いきや来て下さったようです。現在、日赤に通院するにしても、なかなか足がないとのことと祐CLに繋がりました。相談会の名称は、生活をもう少し強調した方が良さそうです。

長竹(国府台病院)

大崎市から石巻市までは遠いので拠点を石巻市内にぜひ移してほしいと思います。

山本(国府台病院)

医療福祉相談会は、名称・方法 etc 要検討です。アウトリーチ・マネジメント型の支援について、検討していただきたいと思います。

事務所ボランティア

10月10日(月)

取出(初台リハビリテーション病院)

本日のパートナー末廣さんは早くも3回目のボランティアです。頼もしい限りで、安心して午後は職場に戻ります。又、ニュースレター担当の小淵さんは、本日お休みなのに、自宅にて原稿作りをされています。本当に感謝です。

事務所も一原SWを迎えて、そろそろ現地と会員を繋ぐ役割を行なうフェーズに入れそうな予感があります。でもそうなれたのは、不十分であることを悩みながらも、やめないで活動を続けてきてくれた、これまでの事務所ボランティア1人1人のおかげです。皆さん、お疲れ様。もう一息、一原さんを盛りたてつつがんばりましょう。

末廣(等潤病院)

本日は取出さんと午前中一緒でしたので安心でした。初台リハビリテーション病院に連絡させていただいた時も東SWのご返答ありがとうございました。今日はマニュアルの内容に幾つか赤ペンを入れました。今後のボランティアさん達のご参考になれば…と思います。次回はスムーズな電話対応ができればと思います。

10月11日(火)

一原(自宅)

先週末現地では色々動きがあったので、今日はその情報収集をしました。まずは初回の相談会お疲れ様でした。

10月12日(水)

芦田(初台リハビリテーション病院)

富永さんとの久々の共同作業、楽しい半日でした。

富永(大倉山記念病院)

午前中は楽しく仕事できてよかったのですが、午後は災害医療研修メ切日と分かり慌ててしまいました…。資料を事前に見ておかないといけないと改めて思いました。反省…。石巻の新たな取り組みを現地でされている皆さんをサポートできるよう来月も頑張ります。

10月13日(木)

一原(自宅)

今日は星さんが来て下さり、人手のある時にしかできないような資料整理などを行うことができました。

星(内野クリニック)

一原さんと1日一緒に、とても心強かったです。資料整理等、今後作業等しやすい環境をつくるお手伝いが少しは出来たかなと思います。

10月14日(金)

左右田(初台リハビリテーション病院)

久しぶりですが、一原さんから最近の状況を伺い、安心して過ごすことができました。事務所のデスク回りがとてもスッキリしていて、皆さまのお働きに感謝です。

一原(自宅)

11月の応募が少しずつ入り始めました。その頃活動の内容はどう変化しているのでしょうか?今日は現地に佐原会長と笹岡副本部長が行かれています。きっと何かが決まったはず…。状況を確認していきたいと思います。

10月15日(土)

清水(初台リハビリテーション病院)

一原さんとは間接的にしかお会いできませんでしたが、すごくスムーズに作業が行なえました。本日は黙々と作業を行ないました。ありがとうございます。